

2025 年度 政策討論会 第一分科会（第 4 回）要点記録

・テーマ ベイエリアのリノベーションについて

・日時 令和 7 年 8 月 12 日（火）

・場所 第一委員会室

・会議時間 10：00～11：04

・出席者 岸田 厚 （座長）

岩崎 雅秋（副座長）

高比良正明

海老原友子

昼馬 光一

反甫 旭

京西 且哲

松本 妙子

*座長、副座長以外は議席番号順

・議事内容 1.各委員が描く臨海部のあり方を提案

2.次回はたたき台を基に検討

3.今後の討論会の予定について

次回日程 10 月 7 日（火）10：00～ 議会会議室

・発言要旨

岸田座長

- ・ベイエリアのリノベーションについて、委員が描く臨海部のあり方について提案してもらう。おおむねベイエリアでは海水面を生かした取組の提案が多くあった。いろんな提案を受け今後どのように提案・提言としてまとめていくか議論をする。

岩崎副座長

- ・カンカンにロピアが来たこともあり、たまたま浪切ホールの大ホールでコンサートがあった日にカンカンの駐車場に行ったが、満杯状態であった。この入り客に例えばコンサートの前後に来てもらえるような取組をすれば周辺が賑わうのになと感じた。

松本議員

- ・浪切ホールでコンサートなど開催しているが、1500 人収容できるホールで、昼の部、夜の部合わせて 3000 名の集客。コンサート終わり、食事をするお店がないのもったいない話である。飲食店など増やすか、岸和田市内のお店に流れる取り組みを検討すべき。
- ・クライミング小学生大会やソフトボールの全国大会なども岸和田で開催した場合、ホテル誘致やグラウンドの整備。せっかく人が集まる要素がありながら、上手く活用出来ていない。他の議員が発言していたが、中心者が決まっていないので、進めら

れない原因があるかもしれない。いくつもの課が協力して、めいめい役割をこなしていけばいいのではないか。指揮とる中心者は副市長も2人いらっしゃる。

京西議員

- ・岸和田旧港地区周辺の魅力づくり構想はベイエリアの賑わいづくりを目的に策定したものである。したがって、エリア内の関係者は構想を具現化する当事者として責任感を持つべきである。前回（第3回）の分科会で産業政策課は、関係団体に対して岸和田ウォーターフロント連絡協議会への参画を求め、課題共有の場として再スタートするとの考えを示された。まずは、ベイエリアの賑わいづくりの核となる協議会の組織を拡充し、まとめ役である責任者を定め、情報収集と目指すべき方向性を明確にすべきである。併せて、行政機関や施設関係者だけでなく、賑わいづくりのノウハウを持つイベント企画運営団体の参画を求める。本市の関係者は、早急に組織強化に向けた取組に着手すること。

反甫議員

- ・構想の地域で人が移動できる仕組みを作ることが必要である。

昼馬議員

- ・岸和田ウォーターフロント連絡協議会はあるが、機能していない。ベイエリアの発展はきわめて重要である。新市長が改めて号令をかける必要があると思う。
- ・私としては今の所、一大ホテル街を目指すのが市の発展に繋がると思う。

海老原議員

- ・海上を利用したイベントや水産業（特産品のしらすなど）を表に出したイベントの、定期的・継続的な開催で、旧港地区のイメージアップを図り、賑わいを創出する。

高比良議員

- ・前回、堺市での2050年に向けてのグランドビジョン内の旧堺港イメージをお知らせしたが、カンカン前も同様に砂浜や遊泳場などではなく、参考になると考える。井上博元議員も内湾へヨットやディンギーを浮かべる提案をしており、B&Gとの交渉についても勘案していた。これは、市長の提唱する「日本一のスポーツのまち」の言葉通り、水面でのスポーツの開催なども府と協議すべきである。